講義名	国際会計論					授業形態	
担当教員	島田　奈美	開講期・曜日・時限	前期 木曜日 ２時限				
		単位数	2	履修開始年次	３年生	ナンバリング・コード	

主題と概要

今やビジネスの世界に国境はありません。グローバル・スタンダードへの対応は企業活動にとって大変重要な意味をもっており、ビジネスにおけるコミュニケーション・ツールとしての会計もその潮流に逆らうことはできません。本講義ではグローバル環境下における会計の役割を理解することに主眼をおき、学習を進めていきます。
具体的には、国際財務報告基準（IFRS）を取り上げ、その設立経緯および概要、そしてその適用に関する国際的動向（日本も含める）について説明していきます。

本講義は、経営学科・会計コースにおけるディプロマポリシーの達成に寄与します。詳細は「卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連」欄をご覧ください。

到達目標

(1)会計基準の国際的統一化の経緯と必要性，その理論的課題について理解できるようになる。
(2)国際財務報告基準（IFRS）の基本的な考え方が理解できるようになる。
(3)日本の会計基準の現状とIFRSとの関係が理解できるようになる。
(4)IFRSに対する日本の対応についてテーマ別に学習することにより、IFRS特有の考え方を身につけることができるようになる。

上記の到達目標を達成することにより、経営学科・会計コースにおけるディプロマポリシーの達成に寄与します。

提出課題

学修事項の理解度を把握するために、講義中の課題と中間試験を行います。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

課題を出した次の回に採点のポイントと解説を行います。

評価の基準

① 中間課題（30%）
② 期末課題（50%）
③ 講義中の課題（20%）：講義内容の理解度を測ります。

以上の３項目を総合的に最終評価を行います。

履修にあたっての注意・助言他

注意点
①配布資料は毎回持参のこと。忘れた場合には講義中の課題に取り組めない可能性があります。
②私語厳禁（注意に従わない場合、退室してもらいます。）

助言
本講義は簿記や会計の応用科目となります。そのため、会計の基礎科目である「財務会計論Ⅰ・Ⅱ」などの講義を履修済みまたは履修中であることが望ましいです。

教科書

.使用しない.				

参考図書

.IFRS会計学基本テキスト(第6版).	橋本尚，山田善隆	中央経済社	3740	9784502285417

その他

教科書は使用しません。その代わりに、ほぼ毎回、講義中にプリント資料を配布します。

授業計画

1. IFRS（国際財務報告基準）の基礎知識：IFRSとは
2. IFRS（国際財務報告基準）の基礎知識：IFRSを学ぶことの意義
3. IFRS（国際財務報告基準）の基礎知識：IFRSの組織構造とデュープロセス
4. IFRS（国際財務報告基準）の基礎知識：IFRSの歴史
5. IFRS（国際財務報告基準）の基礎知識：IFRSの特徴（８つの特徴）
6. IFRS（国際財務報告基準）の基礎知識：IFRSの特徴（概念フレームワーク）
7. 第1回中間課題
8. IFRSの導入状況
9. IAS（国際会計基準）の導入①－経緯
10. IAS（国際会計基準）の導入②－現状
11. IFRS導入が与える影響（収益など）
12. IFRS導入が与える影響（棚卸資産など）
13. IFRS財務諸表の特徴
14. 第2回中間課題
15. まとめ

＊講義の進捗度により上記の計画が前後する場合があります。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

○	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（ＡＬ型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：シラバスを確認し、講義各回の資料及び参考文献の該当部分に目を通してください。その際分からない単語があればあらかじめ調べておきましょう。（２時間程度）
復習：講義内容で理解できた部分とできなかった部分、興味を抱いた部分を整理し、自分なりのテーマをもって次回以降の講義を受ける準備をしてください。（２時間程度）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本講義は、以下の学科・コースにおけるディプロマポリシーの達成に寄与します。
経営学科
（1）－①　各業界の動向や問題点を理解するための基礎知識を身につけ、これをもとに、企業マネジメントに関する問題探索、課題提案ができる。
会計コース
（5）-①　簿記・会計の学問的知識を身につけ、企業の財政状態、経営成績、キャッシュフロー等に関する情報を作成、分析することができる。
（5）-②　企業の社会的役割を理解したうえで、修得した専門知識をもとに企業が直面する問題や企業の強みを発見し、経営戦略の構築に貢献することができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考